


平成30年度



授 業 計 画



福島学院大学大学院
心理学研究科こども心理専攻



福島学院大学の教育

I. 建学の精神

本学は学則第1条に、『教育基本法、学校教育法に則り、学院創立者の信念である「真心こそすべてのすべて」という建学の精神に基づきSincerity（真心）とHospitality（思いやり）を教育の根本におき、広く知識を授けるとともに、専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、職業及び實際生活に必要な人材を育成することを目的とする』とうたっております。

「真心こそすべてのすべて」これを身につけた学生の育成こそは、本学の創立者故菅野慶助先生・菅野八千代先生の建学の理想であります。

(1) 真心

真心とはいうまでもなく、誠とか至誠とか呼ばれるものと相通じ、一般的な考え方を示すものとして、広辞苑では、「誠の心。いつわりのない真実の心。」と記しています。また、「誠」の項では、「真」、「実」などの文字とともに、「真実の通りであること。うそでないこと」、また、「人に対して親切にして欺かぬこと」としております。

このようにして、真心は先ず、自己に対していつわりのないこと。すなわち自らの良心の声に聞いて恥じないことを意味しています。

誠実・信用・信頼ということは今日の社会では最も大切なことです。誠実・信用・信頼がなくなれば、いかに立派な企業や人も社会的に存在できないからです。

(2) すべてのすべて

以上のような意味の真心こそは、人間の行為や社会生活のすべてを貫くものでなければならぬのであって、菅野慶助先生が「一にも真心、二にも真心」と述べておられるのはこのことを指すのであります。

さらに、真心はすべての徳の中でも根本に位するものとして、これらをとらえることができます。この二つの意味を込めて「すべてのすべて」と言っているのです。

(3) 信念のことば

真心を以上のように誠、至誠と解するとき、それは先ず、儒学における重要な概念として、儒学者の諸説があり、また、国学においても「真心」について説くところがあります。さらに、その他の倫理・哲学者においても説きかたは種々でありましょう。

しかし、本学における言葉並びにその精神は、創立者菅野先生の日常の実践の中において体得されたものであり、また、これを体現すべく努めに努めた体験の中から生まれてきた信念であって、思弁的な産物ではありません。

したがって、この言葉の真の意味は、菅野先生がこれまで歩んできた「足あと」そのものの中から見出すことができるものと言って過言ではありません。

本学においては、真心とその実践を基盤とする国際平和の実現のための教育を、ひとつの特色として打ち出しており、これもまた、菅野先生の信念から生み出されたものです。

われわれは、建学当初の「真心こそすべてのすべて」の精神を基本として、人々の信頼と幸福を求め、さらに、世界平和の実現のための教育の重視へと発展してきたその経緯をたずね、さらに将来を展望し、建学の精神の高揚に努めなければなりません。

Ⅱ. 教育の理念

本学は、感銘と感動を与え、知的好奇心を喚起する授業の実施を目指すとともに、自らの人生を創造的に生きようとする学生を受け入れ、支援します。

本学が求め、そして育成しようとする人間像については次の通りです。

- (1) **真心を持って人に接し、人の立場を考えて行動できるひとを育てます。**
真心は人間社会を築く礎であり、人間関係の基本です。
心のこもった対応や接遇を心掛け、相手や他人の立場を理解しようとする謙虚さを失うことなく行動ができる人間を育成します。
- (2) **夢とロマンを胸に、自らの人生を創造的に生きようとするひとを育てます。**
夢をもって生きること、浪漫を求めて生きること、その実現に努力すること、それは自らの青春を美しく磨くことです。夢やロマンがあればどんなに苦しい時代でも生きていけるのです。
- (3) **的確な判断ができ、自らの知識と技能を生かして社会に貢献できるひとを育てます。**
的確な判断は、現代社会に必要な知識と教養の獲得と、社会のいろいろな人との多様な人間関係の錬磨の中から生まれてくるものです。
自らの知識を深め、自らの技能を高めて、社会に貢献できる人材の育成につとめます。
- (4) **国際的な視野に立ち、多様性を理解し、相互理解の心を持つひとを育てます。**
情報は一瞬にして世界を駆け巡ります。世界は日本に、日本はまた世界へ影響を与えます。国際的な視野に立って相手のことを理解することのできる人間の育成につとめます。
- (5) **感動と感激を素直に表現できるひとを育てます。**
感動と感激のある人生ほど素晴らしいものではありません。
一つひとつの発見や驚きが、人生に若さと新鮮さを与えてくれます。そうしたひとを育てる教育でありたいと思います。

こうした学生を育成することを建学の精神として掲げ、本学はこれを学是としています。

目次

福島学院大学の教育		1
目次		3
こども心理専攻の教育		4
カリキュラムツリー		5
こども心理関連科目		
教育心理学特論	梅宮れいか	9
家族心理学特論	渡部敦子	11
心理学研究法特論	梅宮れいか	13
こども発達障害関連科目		
精神医学特論	星野仁彦	15
発達障害児心理学特論	板垣健太郎	17
発達障害児心理学演習	板垣健太郎	19
自由研究		
自由研究Ⅱ	田辺稔 梅宮れいか	21
課題研究		
課題研究Ⅰ	田辺稔 板垣健太郎	23
	梅宮れいか 織田正昭	
課題研究Ⅱ	田辺稔 板垣健太郎	25
	梅宮れいか 織田正昭	
修士論文		
修士論文	田辺稔 板垣健太郎	27
	梅宮れいか 織田正昭	

こども心理専攻の教育

大学院心理学研究科こども心理専攻における教育研究及び人材養成の目標

本大学院心理学研究科は、心理学領域の理論および応用を教授研究し、心の問題の今日的な課題に対応できる高度で専門的な実践能力を養い、心理的支援に習熟した人材の育成を目的としています。

こども心理専攻は、乳幼児期および児童期における、こどもの保育・教育上の今日的課題および個別的課題を研究し、こどもおよび保護者、家族への心理相談や心のケアを通じて、保育教育の現場に役立つ人材の育成を目指すことを目的としています。

カリキュラムポリシー

こども心理専攻は、乳児期から児童期における、こどもの保育・教育上の今日的課題および個別的課題に対応できる心理的援助支援の内容を学修するために、現代こども事情関連、こども発達障害関連、こども心理学関連の3科目分野で教育課程を編成しています。現職者として現場における経験、体験に応じて自主的、自立的能力を涵養することを目的として、討論形式もしくはケーススタディを導入した授業などで進めています。

授業の実施場所と時間

こども心理専攻の授業は、原則として宮代キャンパスにおいて実施します。

授業は1コマ90分で、平日の6時限目（17:50～19:20）、7時限目（19:30～21:00）に実施します。

集中講義は、1日5コマ（9:40～18:30）を3日間実施します。集中講義の日程は、別に配布する学事日程表で確認してください。集中講義は、福島駅前キャンパスでの開講です。

こども心理専攻では、臨床心理学専攻と合同開講で福島駅前キャンパスで開講する授業もあります。どの科目が福島駅前キャンパスで開講となるかは、時間割で確認してください。

カリキュラムツリー

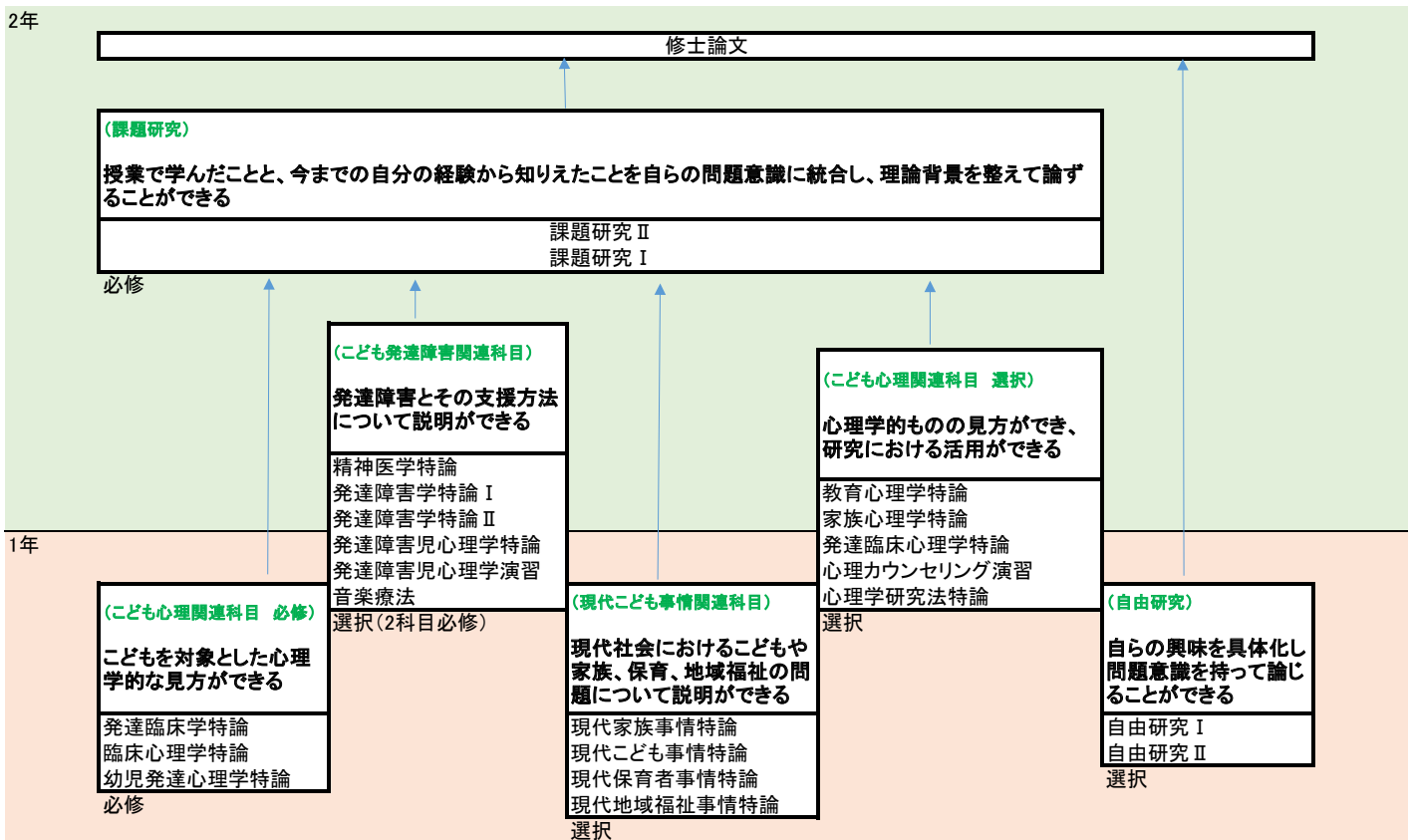
心理学研究科こども心理専攻 カリキュラムツリー

人材育成の目標

乳幼児期および児童期におけるこどもの個別的課題や保育・教育上の今日的課題を研究し、こどもの発達支援だけでなく、保護者、家族への心理相談や心のケアもできる保育・教育現場でのスペシャリストを育成する。

学修成果

- 1) 保育・教育の現場において、こどもの発達や保護者、家族が抱える問題に対応できる知識を身につけている。
- 2) 保育・教育の現場が抱えるさまざまな課題を解決して行ける、多角的な視点と応用力を身につけている。
- 3) 保育・教育の現場における経験、体験に応じて自主的、自立的に研究ができる。



教育課程

科目区分	授業科目の名称	配当年次		単位数		授業形態		授業回数	開講キャンパス	備考
		年次	学期	必修	選択	講義	演習			
現代こども事情関連科目	現代家族事情特論	1	後		2	○		1 5	宮代	
	現代こども事情特論	1	前		2	○		1 5	宮代	
	現代保育者事情特論	1	後		2	○		1 5	駅前	
	現代地域福祉事情特論	1	後		2	○		1 5	駅前	
こども心理関連科目	幼児発達心理学特論	1	前	2		○		1 5	宮代	
	臨床心理学特論	1	前	2		○		1 5	宮代	
	発達臨床学特論	1	前	2		○		1 5	宮代	
	教育心理学特論	1・2	前		2	○		1 5	駅前	
	家族心理学特論	1・2	前		2	○		1 5	駅前	集中
	発達臨床心理学特論	1・2	後		2	○		1 5	宮代	
	心理カウンセリング演習	1・2	後		2		○	1 5	駅前	集中
	心理学研究法特論	1・2	前		2	○		1 5	駅前	
こども発達障害関連科目	精神医学特論	1・2	前		2	○		1 5	駅前	集中
	発達障害学特論 I	1・2	後	↑ 選択必修2科目4単位 ↓	2	○		1 5	駅前	
	発達障害学特論 II	1・2	後		2	○		1 5	駅前	
	発達障害児心理学特論	1・2	後		2	○		1 5	駅前	
	発達障害児心理学演習	1・2	後		2		○	1 5	駅前	
	音楽療法	1・2	後		2		○	1 5	駅前	
自由研究	自由研究 I	1	前		2	○		1 5	宮代	
	自由研究 II	1	後		2	○		1 5	宮代	
課題研究	課題研究 I	2	前	2		履修順序の 制限有り I → II				時間外
	課題研究 II	2	後	2						時間外

修士論文	修士論文	最終 年次		修了必修 論文審査と口頭試験
------	------	----------	--	----------------

成績評価について

成績評価は、以下の共通理解を基準とし、各教員が設けた採点項目とその配点割合に従って公正に行われます。

評価に関する共通理解

授業方法、1年間の授業計画、学修の成果に係る評価の基準等を、次の付帯的措置を参考としてシラバスに明示するとともに、学生に対して最初の授業の際に説明する。なお、成績評価点数は100点満点とする。

1. 授業内容に関係のない私語、もしくは授業の流れを阻害する学生の私語は注意1回につき1点減点、同一学生の注意が3回以降は1回につき2点減点とする。ただし、必要と判断した場合は履修制限に関する細則に従い、退席指示、履修取消などの措置をとるものとする。
2. 遅刻・早退・欠席

遅刻・早退1回につき1点減点、欠席1回につき3点減点とする。

ただし、遅刻・早退3回で1回の欠席とされた者の場合は、その欠席とした分については減点しない。

ただし、次の場合の遅刻または欠席は減点の対象とはしない。なお、該当学生は該当項について「事由書」を文書（書式自由）で、事前に判明した場合は事前に、当該授業後の場合は事後に各授業担当教員に提出するものとする。

 - ① 学内外における本学所定の実習に参加する場合
 - ② 学校保健安全法の規定に基づく学長による出席停止の指示に従う場合
 - ③ 裁判員制度による裁判員に選任された場合
 - ④ 就職試験や面接を受験する場合
 - ⑤ 公共交通機関の遅延や運休による場合
 - ⑥ 悪天候または事故等によりやむを得ない場合
 - ⑦ 親族の不幸等やむを得ない場合
3. 欠格

定められた授業回数の3分の1を超える回数を欠席した場合は、前号①から⑦までの場合を含めて欠格とし、期末試験への出席を認めず、単位認定は行わないものとする。
4. 質問応答
 - ①指名応答

指名した学生が質問に適切に応答したと認めるとき、その内容の評価に応じ1回につき1～2点加点とする。

質問に不適切な応答をしたと認めるとき、または質問に答えられえなかったとき、1回につき1点減点とする。
 - ②自発的応答

教員の質問に対して自ら挙手するなど学生が自発的に適切に応答したと教員が認めるとき、その内容の評価に応じ1回につき1～3点加点とする。また、学生の自発性および授業の双方向性推進の措置として、全授業回数中、教員の質問に対し学生が自発的応答を1回もしなかったとき、5点減点とする。
5. 小論文（宿題）

未提出の小論文1件につき2点減点とする。また、教員が小論文を優良と評価したとき、小論文1件につき内容の優良さに応じ1～3点加点とする。
6. 小テスト

授業の理解度を計る小テストについて教員が優良と認めた場合は、小テスト1件につき評価により1～3点加点とする。
7. 期末試験としてのレポート提出を課す場合

レポートは原則として試験期間開始前に提出させるものとし、教員が指定する締め切り期限を過ぎた場合は期限後1日（土曜、日曜、祝日を含む。）あたり2点減点とし、また、提出がない場合のレポート評価は零点とする。教員が定めた場合の最低字数に不足する場合も適宜減点するものとする。字数の上限を定めた場合で、それを越えた場合も同様とする。

加減点の措置は、成績の総合評価が100点を越えた場合は100点として評価するものとする。

授業計画

授業科目名	教育心理学特論 (臨床心理学専攻合同開講)	授業形態・単位数	講義・2
		開講年次	1, 2
担当教員	教授	開講期	前期
	うめみや れいか 梅宮 れいか	授業回数	15
		期末試験の有無	無
	本務先： 職名：		
開講キャンパス	福島駅前	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等	初回時に説明します。		

【授業の概要】 この授業は、教育場面で現れる諸問題に対応するための基礎知識を、人の心理的側面における生涯発達から理解するものです。効果的な教育手法の考察は対象としていませんが、教育環境における人の発達に関して、教育学的なアプローチを含みます。 教科書を用いますが、毎回全員にレジメを提出してもらいます。レジメ発表の当番は、CiNii で関連論文を検索し、その内容を踏まえた発表をしてください。発表を基に知識を広げる授業とします。	【授業の概要との対応項目】		
	◎	A	知識
		B	技術・技能
	○	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J	多様性への理解力、応用力
	○	K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
発達臨床から人と教育とのかかわりを理解する	目標	A	
教育場面での諸問題を心理学的に理解する基礎を養う	目標	A	
人の生涯発達と、直面している問題の関係を心理学的に把握する基礎を養う	目標	C、K	
多様な発達の諸相について理解する基礎を養う	目標	J	
	目標		

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	この講座で学ぶ内容の把握 講座運営についての説明 CiNii のつかいかた	福島駅前図書館の情報検索端末を実際に操作する	初回のみ、宮代受講生も駅前に集合のこと
2	教育心理学と発達臨床	講義	予習：教科書の通読 復習：教科書の理解と疑問点の整理
3	生涯発達	関連箇所 教科書第 1 章 レビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：教科書の理解と疑問点の整理

4	乳幼児期の発達	関連箇所 教科書第 2 章 レビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：教科書の理解と疑問点の整理
5	発達障害と臨床的援助	関連箇所 教科書第 3 章 レビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：教科書の理解と疑問点の整理
6	児童期・思春期の発達と教育環境	関連箇所 教科書第 4、5 章 レビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：教科書の理解と疑問点の整理
7	思春期の性の発達と LGBT	講義 DVD「僕のバラ色の人生」 30 分	予習：用語の理解 復習：ノートの整理
8	スクールカウンセラーの機能と援助サービス	関連箇所 教科書第 6 章 レビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：教科書の理解と疑問点の整理
9	青年期の発達	関連箇所 教科書第 7 章 レビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：教科書の理解と疑問点の整理
10	青年期の心理障害と精神病理	関連箇所 教科書第 8 章 レビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：教科書の理解と疑問点の整理
11	大学生の発達と学生相談	関連箇所 教科書第 9 章 レビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：教科書の理解と疑問点の整理
12	家族臨床と教育	関連箇所 教科書第 11 章 レビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：教科書の理解と疑問点の整理
13	老年期の発達	関連箇所 教科書第 12 章 レビュー発表とディスカッション	予習：レジメの作成 復習：教科書の理解と疑問点の整理
14	総ディスカッション	ディスカッション	予習：テーマに関する情報の整理 復習：知識の整理
15	最終レポートの作成	課題は 14 回目に発表する 個別の質問を含めた、知識の確認 を含む	予習：課題に関する情報の収集
期末 試験	行わない。		

【最終レポートの講評】

希望者には、最終レポートの講評をオフィスアワー等を通じて行います。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

各回のレジメ 5 点満点（計 50 点満点）、総ディスカッションの発言内容 2.5 点満点、最終レポート 2.5 点満点とし、総計 100 点満点で評価します。なお、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う場合があります。

【教科書】

書名：教育心理学〈2〉発達と臨床援助の心理学

著者名：山下晴彦

発行所：東京大学出版会

価格：2,900 円（税別）

【参考書】

書名：教育心理学キーワード

著者名：森敏昭・秋田喜代美（編）

発行所：有斐閣双書

価格：1,900 円（税別）

【その他補足事項】

発表は輪番で行いますが、全員、毎回レジメの提出を求めます。教科書の理解と共に、CiNii での論文検索は必ず行ってください。先行研究のレビューがしっかりされているレジメ、発言を高く評価します。

なお、CiNii での検索の仕方は、初回に説明します。

授業科目名	家族心理学特論 (臨床心理学専攻合同開講)	授業形態・単位数	講義・2
		開講年次	1, 2
担当教員	兼任准教授	開講期	前期(夏期集中講義)
	わたなべ あつこ	授業回数	15
	渡部 敦子	期末試験の有無	無
	本務先： 職名：		
開講キャンパス	福島駅前	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 本授業では、現代家族の様相について様々な側面から解説していく。さらに家族を理解し支援する理論と技法について実践を交えながら学びます。	【授業の概要との対応項目】	
	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
家族とは何かについて説明できる。	目標	A
家族システム理論について理解できる。	目標	A J
家族を支援する理論の基礎を理解する。	目標	A B J
	目標	
	目標	

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	家族とは何か 家族心理学とはどのような学問か	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
2	家族の発達		
3	夫婦関係、親子関係、きょうだい関係		

4	父性・母性とは虐待	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む	
5	家族をとりまくさまざまな問題		配布資料を読む レポート作成	
6	家族アセスメントの方法		配布資料を読む	
7	家族システム論 (1) システム論とはどのような考え方か			
8	家族システム論 (2) 事例をもとに考えてみる		配布資料を読む レポート作成	
9	多世代派家族療法		配布資料を読む	
10	構造派家族療法			
11	コミュニケーション派家族療法 (1) コミュニケーションについて考える			
12	コミュニケーション派家族療法 (2) 実際の進め方			
13	短期療法 解決志向アプローチ			
14	ナラティブセラピー			
15	まとめ			配布資料を読む まとめレポート作成
期末試験	行わない。			
【最終レポートの講評】				
【到達度の評価（評価方法・基準）】 授業への参加態度（ディスカッションへの積極性、授業内容の理解度）40% 小レポート（随時行う）20% まとめレポート 40%				
【教科書】 配布資料				
【参考書】 書名：家族療法の秘訣 著者名：東豊 発行所：日本評論社 価格：2,400 円 (税別)				
【その他補足事項】				

授業科目名	心理学研究法特論 (臨床心理学専攻合同開講)	授業形態・単位数	講義・2
		開講年次	1, 2
担当教員	教授	開講期	前期
	うめみや れいか 梅宮 れいか	授業回数	15
		期末試験の有無	無
	本務先： 職名：		
開講キャンパス	福島駅前	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 科学的に探求する論理的思考力を科学哲学における名著である「科学革命の構造」を読み解くことで身につけます。	【授業の概要との対応項目】	
	A	知識
	B	技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
Paradigm を概念的に理解する	目標	C
論理的なものの見方で論文が理解できるようになる	目標	C
	目標	

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	科学哲学とは何か？ ガイダンス	担当章わけなど	
2	文献 第1章	担当者のまとめたレジメと発表により授業を進める	担当者はレジメを準備、出席者は文献を通読のこと
3	文献 第2章		

4	文献 第3章	担当者のまとめたレジメと発表により授業を進める	担当者はレジメを準備、出席者は文献を通読のこと
5	文献 第4章		
6	文献 第5章		
7	文献 第6章		
8	文献 第7章		
9	文献 第8章		
10	文献 第9章		
11	文献 第10章		
12	文献 第11章		
13	文献 第12章		
14	文献 第13章		
15	総括・ディスカッション	学んだことをまとめ、「科学」についてディスカッションする	
期末試験	行わない		

【到達度の評価（評価方法・基準）】

レジメ＝80点、授業への積極的な参加度＝20点。レジメ発表が複数回の時にはその平均点とする。

【教科書】 書名：科学革命の構造

著者名：トーマス・クーン

発行所：みすず書房

価格：3024円（税別）

【参考書】 書名：科学の考え方・学び方

著者名：池内了

発行所：岩波ジュニア新書

価格：907円（税別）

書名：歴史としての科学

著者名：村上陽一郎

発行所：筑摩書房

価格：1300円（税別）

【その他補足事項】

教科書は、高価なので古本を買うことを勧める。

授業科目名	精神医学特論 (臨床心理学専攻合同開講)	授業形態・単位数	講義・2
		開講年次	1, 2
担当教員	兼任教授	開講期	前期(集中)
	ほしの よしひこ	授業回数	15
	星野 仁彦	期末試験の有無	無
	本務先： 職名：		
開講キャンパス	福島駅前	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等	初回時に説明します。		

【授業の概要】 各種の精神障害一特に発達障害、不安障害(神経症)、うつ病、気分障害、認知症、嗜癖行動、人格障害、統合失調症などの臨床症状、病態と原因、医学的治療法、心理療法、家族療法、行動療法、リハビリテーションなどについて基礎的、臨床的知識を深めます。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G	協働能力
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
精神医学の基礎的、臨床的知識を身につけ、医療、看護、福祉との連携に関する臨床心理学的知識、観点を修得	目標	A C D G H J K	

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	発達障害一特に自閉症について	資料(レジュメ)	
2	発達障害一特に注意欠陥/多動性障害について		ビデオ「心のトラブル Vol.3 - 注意欠陥/多動性障害(ADHD)」(30分)
3	発達障害一特にアスペルガー障害について		発達障害について事後学習を行い、状態像・対応等について理解を深めること

4	不安障害 —特にパニック障害、強迫性障害について	資料（レジюме）	ビデオ「心のトラブル Vol.8 —強迫性障害」（30分）、ビデオ「心のトラブル Vol.9 —パニック障害」（30分）	
5	不安障害 —特にPTSD、離人症について			
6	うつ病・気分障害 その①			
7	うつ病・気分障害 その②			
8	認知症 —特に脳血管性とアルツハイマー型について		ビデオ「心のトラブル Vol.1 —アルツハイマー型認知症」（30分）	
9	認知症—その他			
10	依存症、嗜癖行動 —特にアルコール、薬物依存について			
11	依存症、嗜癖行動 —特にギャンブル、買い物、恋愛、過食について		ビデオ「心のトラブル Vol.7 —摂食障害」（30分）	
12	パーソナリティ障害 —特に境界性、自己愛性、反社会性について		ビデオ「心のトラブル Vol.2 —反社会性人格障害」（30分）	
13	パーソナリティ障害 —特に回避性、依存性、強迫性について			
14	統合失調症 —その臨床症状と病態		ビデオ「心のトラブル Vol.12 —統合失調症（精神分裂病）」（30分）	
15	統合失調症 —その医学的治療とリハビリテーション			
期末試験	行わない。			

【到達度の評価（評価方法・基準）】

授業態度（意欲・積極性）40%と毎回の授業内レポート（授業内容の理解度）60%により判断します。

【教科書】

資料（レジюме）を配布します。

【参考書】

書名：改訂第3版 精神保健福祉士養成セミナー第1巻 精神医学

著者名：小阪憲司他（編）

発行所：へるす出版

価格：2,800円＋税

書名：改訂第3版 精神保健福祉士養成セミナー第2巻 精神保健学

著者名：谷野亮爾他（編）

発行所：へるす出版

価格：3,000円＋税

【その他補足事項】

授業科目名	発達障害児心理学特論 (臨床心理学専攻合同開講)	授業形態・単位数	講義・2
		開講年次	1, 2
担当教員	教授	開講期	前期
	いたがき けんたろう	授業回数	15
	板垣 健太郎	期末試験の有無	無
	本務先： 職名：		
開講キャンパス	福島駅前	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等	初回時に説明します。		

【授業の概要】 発達障害について、その概念、診断、原因、援助原理について学ぶ。履修者がテーマを分担し、関係文献・著書に基づいてレジュメを作成して発表し合うことを中心に授業を展開します。	【授業の概要との対応項目】		
	○	A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
発達障害児の概念、診断、原因について知る。	目標	A J	
発達障害児に対する援助原理を知る	目標	A J	
発達障害児の家族に対する援助の考え方と援助的関わりについて知る。	目標	A J	
	目標		
	目標		

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業説明 テーマ分担	シラバス使用 「テーマ分担表」	
2	知的障害1：概念、行動特徴	講義(レジュメ使用)	レジュメに基づく、予習と復習
3	知的障害2：原因		

4	知的障害 3：援助原理	講義（レジュメ使用）	レジュメに基づく、予習と復習
5	自閉症スペクトラム 1：用語と概念、行動特徴	発表（レジュメ使用） 質疑応答	テーマに関する予習、復習、発表準備
6	自閉症スペクトラム 2：原因		
7	自閉症スペクトラム 3：査定、診断		
8	自閉症スペクトラム 4：援助原理		
9	注意欠陥多動性障害 1：概念、診断		
10	注意欠陥多動性障害 2：原因・病理		
11	注意欠陥多動性障害 3：援助原理		
12	学習障害：原因・病理		
13	保護者への援助		
14	発表や質疑の補充 1	ディスカッション	テーマに関する予習、復習
15	発表や質疑の補充 2		
期末試験	行わない。		

【到達度の評価（評価方法・基準）】

担当したテーマについてのレジュメと発表内容の的確性により評価します。
遅刻・早退 1 回につき 1 点の減点、欠席 1 回につき 3 点の減点。

【教科書】 なし

【参考書】 文献、書籍は必要に応じて紹介あるいは提供します。

【その他補足事項】

授業科目名	発達障害児心理学演習 (臨床心理学専攻合同開講)	授業形態・単位数	演習・2
		開講年次	1, 2
担当教員	教授	開講期	後期
	いたがき けんたろう	授業回数	15
	板垣 健太郎	期末試験の有無	無
	本務先：	職名：	
開講キャンパス	福島駅前	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		選択必修	
注意) 「発達障害児心理学特論」履修済み者のみ受講可			
オフィスアワー・メールアドレス等	初回時に説明します。		

【授業の概要】 発達障害児の個別療育的セラピー、保護者や兄弟姉妹への援助、他機関との連携の実践について学びます。履修者でテーマを分担し、関係文献・著書を調べ、レジュメを作成して発表し合う形式で進めます。授業内容は基本的には「授業内容」とおりですが、履修者の臨床に関する知識や経験に応じて、より必要なものに変更していく予定です。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
発達障害の療育的関わりの方え方や実際の方法について理解する。	目標	A J	
発達障害児を持つ家族への援助の方え方や実際について理解する。	目標	A J	
他機関との連携についての方え方や実際について知る。	目標	A J	
	目標		
	目標		

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業説明、テーマの分担		
2	心理臨床相談センターの施設・設備・業務	説明と見学研修	
3	療育的セラピーの方え方	講義(レジュメ使用)	テーマに即した予習と復習

4	療育的セラピーの進め方	講義（レジュメ使用）	テーマに即した予習と復習
5	療育的セラピーの計画とプログラム、記録		
6	自閉症スペクトラム障害児の療育的セラピー 1 ～目的	発表と質疑応答	発表準備
7	自閉症スペクトラム障害児の療育的セラピー 2 ～心理診断		
8	自閉症スペクトラム障害児の療育的セラピー 3 ～内容		
9	注意欠陥多動性障害の療育的セラピー		
10	「問題行動」の捉え方と対処法		
11	心理職と保育職の連携	発表とディスカッション	
12	心理職と他機関の連携		
13	保護者援助		
14	対象でない子ども（兄弟姉妹）への配慮・ケア		
15	補充ディスカッション	ディスカッション	
期末 試験	行わない。		

【到達度の評価（評価方法・基準）】

担当したテーマについてのレジュメと発表内容の的確さにより評価します。

【教科書】 なし

【参考書】 必要に応じて、文献・書籍を紹介、提供します

【その他補足事項】

授業科目名	自由研究Ⅱ	授業形態・単位数	講義・2
		開講年次	1
担当教員	教授	開講期	後期
	たなべ みのる 田辺 稔	授業回数	15
	うめみや れいか 梅宮 れいか	期末試験の有無	無
	本務先：	職名：	
開講キャンパス		授業時間以外の 必要な学修時間	60 時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等	オリエンテーション時に配布した連絡先でアポイントメントを取ってください。		

【授業の概要】 自らの興味を論文にまとめることを目的とします。 論文の形式は、修士論文のフォームに従い、おおむね 20000 字です。 履修登録は、担当教員を指定して行ってください。そのとき、自分の興味とする内容が、次ページに明記されている各教員の対応分野に合っているか注意してください。微妙な場合は、履修を希望する担当教員と相談の上、履修登録をしてください。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input checked="" type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input checked="" type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
課題意識、問題意識を明確に設定する力	目標	A K	
文献や資料は適切に収集する力	目標	A K	
論文の形式を踏まえて書く力	目標	D K	
論理的で一貫性のある論述、説明をする力	目標	C I	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス		テーマのメモを持参すること
2	テーマの決定	担当教員の下、指導を受けながら独自に文献、論文等の検索をし、取り組むテーマと作成論文の設計を行う。	時間外に文献検索を行い、その経過を報告すること。文献ノートを作り、独自にまとめて論文執筆に備えること。
3			
4			
5			
6	論文の執筆	テーマと設計をもとに、論文を書き進める。なお、毎週進捗状況報告と個別の指導を受けること。	論文の執筆。 14 コマ終了時には提出のこと。
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15	提出論文のプレゼンテーション	提出論文の概略について、プレゼンする	プレゼンテーションの準備

期末試験	行わない。
【提出論文の講評】 提出論文の評価後、希望者には、講評をオフィスアワー等を通じて行います。	

<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>(1) 論文の体裁：20 点満点</p> <p>(2) 論の正確さ：10 点満点</p> <p>(3) 文献収集の妥当性：10 点満点</p> <p>(4) 内容：30 点満点</p> <p>(5) テーマへの取り組み、学修姿勢：20 点満点</p> <p>(6) プレゼンテーション：10 点満点</p> <p>以上を合計し 100 点満点とします。</p> <p>尚、評価に関する共通理解に則り上記点数より減点をすることがあります。</p>

<p>【受け入れる分野】</p> <p>田辺稔 教授 「個人差」(但し個性記述的アプローチでは無く、法則定立的観点による理解)</p> <p>・参考文献 W. ミシェル・Y. ショウダ・O. アイダック 著 黒沢香/原島雅之監訳 パーソナリティ心理学、培風館、¥7,600 + 税</p> <p>梅宮れいか 教授 「社会化」</p> <p>・参考文献 T. パーソンズ、R.F. ベールズ 著、橋爪 貞雄ほか訳、家族—核家族と子どもの社会化、黎明書房 ¥8,900 + 税</p>

<p>【履修に当たっての注意】</p> <p>田辺稔 教授 履修登録前に、予定しているテーマについて妥当かどうか、相談、確認する機会を設けてください。修士論文の執筆要項に準じ、A4 版用紙で本文 17 ページ以上程度の量を目安とします。</p> <p>梅宮れいか 教授 提出は、ワープロ打ち、横書き、紙媒体で行ってください。フォーマットは修士論文のものに準拠します。文字数は 20000 字以上 24000 字以内です。フォーマット、文字数を満たしていないものは受け付けません。</p>
--

<p>【その他補足事項】</p> <p>「自由研究 I」を合格しないで「自由研究 II」は選択できません。</p> <p>調査、観察、面接等の倫理的な問題が生じる可能性のある研究方法を採る予定の場合は事前に申し出、倫理に関する指導を受けてください。</p>

授業科目名	課題研究 I	授業形態・単位数	演習・2
		開講年次	2
担当教員	教授	開講期	前期（時間割外）
	たなべ みのる 田辺 稔	授業回数	
	いたがき けんたろう 板垣 健太郎	期末試験の有無	無
	うめみや れいか 梅宮 れいか		
おだ まさあき 織田 正昭	本務先：	職名：	
開講キャンパス		授業時間以外の 必要な学修時間	
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		必修	
オフィスアワー・メールアドレス等	オリエンテーション時に配布した連絡先でアポイントメントを取ってください。		

【授業の概要】 修士論文作成の指導。 同時に、修論指導会で指導を受けてください。	【授業の概要との対応項目】	
	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input checked="" type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input checked="" type="radio"/>	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input checked="" type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
課題意識、問題意識を明確に設定する力	目標	A K
文献や資料は適切に収集する力	目標	A K
論文の形式を踏まえて書く力	目標	D
論理的で一貫性のある論述をする力	目標	C
媒体を的確にもちい、論理的で分かりやすすプレゼンテーションをする力	目標	I K

【到達度の評価（評価方法・基準）】

(1) 研究姿勢：100点満点で評価します。

尚、評価に関する共通理解に則り上記点数より減点をすることがあります。

【その他補足事項】

「課題研究Ⅰ」を合格しないで「課題研究Ⅱ」は履修できません。

調査、観察、面接等の倫理的な問題が生じる可能性のある研究方法を採る予定の場合は事前に申し出、倫理に関する指導を受けてください。

授業科目名	課題研究Ⅱ	授業形態・単位数	演習・2
		開講年次	2
担当教員	教授	開講期	後期（時間割外）
	たなべ みのる 田辺 稔	授業回数	
	いたがき けんたろう 板垣 健太郎	期末試験の有無	無
	うめみや れいか 梅宮 れいか		
おだ まさあき 織田 正昭	本務先：	職名：	
開講キャンパス		授業時間以外の 必要な学修時間	
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		必修	
オフィスアワー・メールアドレス等	オリエンテーション時に配布した連絡先でアポイントメントを取ってください。		

【授業の概要】 修士論文作成の指導。 この授業は、修士論文合格をもって単位の認定とします。	【授業の概要との対応項目】	
	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input checked="" type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input checked="" type="radio"/>	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
課題意識、問題意識を明確に設定する力	目標	A K
文献や資料は適切に収集する力	目標	A K
論文の形式を踏まえて書く力	目標	D
論理的で一貫性のある論述をする力	目標	C K
	目標	

【到達度の評価（評価方法・基準）】

(1) 研究姿勢：100点満点で評価します。単位認定には、修士論文の合格を条件とします。

尚、評価に関する共通理解に則り上記点数より減点をすることがあります。

【その他補足事項】

「課題研究Ⅰ」を合格しないで「課題研究Ⅱ」は履修できません。

調査、観察、面接等の倫理的な問題が生じる可能性のある研究方法を採る予定の場合は事前に申し出、倫理に関する指導を受けてください。

授業科目名	修士論文	授業形態・単位数	論文
		開講年次	最終学年
担当教員	教授	開講期	提出された論文の 審査と口頭試験
	たなべ みのる 田辺 稔	授業回数	
	いたがき けんたろう 板垣 健太郎	期末試験の有無	
	うめみや れいか 梅宮 れいか		
おだ まさあき 織田 正昭			
	本務先：	職名：	
開講キャンパス		授業時間以外の 必要な学修時間	
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		必修	
オフィスアワー・メールアドレス等	オリエンテーション時に配布した連絡先でアポイントメントを取ってください。		

【授業の概要】 修士課程で学修した成果を修士論文としてまとめ、 1、論文構成力（論文を書く力） 2、情報検索力 3、口頭による質疑応答対応力 4、研究に関する態度 が修士の学位を受けるに達していることを示す。	【授業の概要との対応項目】		
	◎	A	知識
		B	技術・技能
	◎	C	論理的思考力
	◎	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	○	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
課題意識、問題意識を明確に設定する力	目標	A	K
文献や資料を適切に収集する力	目標	A	K
論文の形式を踏まえて書く力	目標	D	
論理的で一貫性のある論述をする力	目標	C	K
科学的根拠にもとづき、説得力のある質疑応答をする力	目標	I	K

【到達度の評価（評価方法・基準）】

提出された論文を評価します（成果評価）。評価の観点は以下の通りです。

- (1) 課題意識、問題意識は明確か
- (2) テーマに関する理解が的確に成されているか
- (3) 目的は明確か（絞り込まれているか）
- (4) 研究方法は妥当か
- (5) 文献や資料は適切で十分か
- (6) 論文の形式を踏まえて書かれているか
- (7) 論理的で一貫性のある論述となっているか
- (8) 一定の量になっているか
- (9) オリジナルのものであるか
- (10) 論文執筆の基本ルールや研究倫理を守っているか

口述試験（試験）では次の観点で審査をします。

- (1) 修士論文に関する質疑応答が的確にできること
- (2) 論文執筆に関する基礎的な知識があること

審査会は、主査、副査 2 名の計 3 名で構成し、専攻会議で決定した後、学長から委嘱された教員が行います。審査会では、論文内容と口述試験の 2 点で修士論文を評価します。提出された論文が合格基準を満たしていない場合には修正を求めます。期日までに再提出してください。再提出がない場合は、自動的に不合格となります。また、修正が不十分な場合も不合格となります。

そのほか作成様式や提出部数などは学生便覧を熟読してください。

【その他補足事項】

自らの課題意識に基づきテーマを設定し、一連の研究過程を自ら実施し、その成果を、論文としてまとめ提出してください。自主的、自発的な学習として進めることとします。

調査、観察、面接等の倫理的な問題が生じる可能性のある研究方法を採る予定の場合は事前に申し出、倫理に関する指導を受けてください。

4, 5, 6, 7, 9, 10, 11 月に修士論文指導会が開催されます。レジメによる発表を通して指導を受けてください。

修士論文指導会での発表はエントリー制です。積極的にエントリーをして指導を受けてください。指導会へのエントリーは修士論文評価に勘案されます。

